『これからの京都市政に望むこと』
― 世界の京都を目指して ―

小　幡　正　雄

1　はじめに

(1)　京都市政とのかかわり

京都市に生まれ育ちながら，つい数年前まで全く京都市政そのものに興味も無く，全く何も分かっていなかった自分がおりました。かかわりの発端は，京都市がゴミ袋有料化に取り組むと言うことで事前説明会に行ったことからです。そしてそのことから京都市が取り組んでいることに多少興味を持ちはじめ，また，個人的にも環境問題に課題を感じていましたので，まず使用済み天ぷら油の自宅前での回収をはじめました。そして近隣の有志のみなさんとのリサイクルゴミ回収に毎月参画しだしたのです。

図１　自宅前での
使用済み天ぷら油回収

図２　自宅近くの公会堂前での
リサイクルゴミ回収

おばた　まさお　元京都市基本計画点検委員会委員。同委員会では，華やぎ部会に市民公募委員として所属。

(2)　京都市基本計画点検委員会への応募

それ以降は市民しんぶんも目を通すようになり, 2007年４月１日号で市民委員募集の案内を目にし，応募いたしました。大学までは京都でお世話になり，就職してからは大阪，名古屋，東京と, 京都とはかかわり無く過ごしてきたのですが，定年間近になり社会に何かお返しすることは無いかと自分探しの一環としてのスタートです。実は国際化推進プラン策定委員会と基本計画点検委員会（華やぎ部会）の双方に応募し，自信を持って応募したのは国際化委員会の方でしたが，残念ながら受かりませんで，今回はダメだったと諦めかけていたところ６月に入り選定されたとの案内が参りました。

2　京都市基本計画点検委員会に参加して

(1)　京都市基本計画の事前学習

案内と同時に大変な量の冊子が送られてきました。これを事前に目を通せと言うのか, いやはやこれは大変なことを引き受けたなと言うのが実直な感想です。一応は目を通すべきだと頑張り，今まで取り組んでこられたことがいかに多く分野にまたがり大変な作業をやっていただいたのだと感心しました。逆にこれらのことを市民に知っていただくには大変な労力が要ることやどうしたらいいのかとの思いを強く感じました。

(2)　第一回基本計画点検委員会

安らぎ部会，華やぎ部会，パートナーシップ部会合同の基本計画点検委員会の開催が６月29日にあり，基本計画策定後の市政の現状報告と意見交換が行われました。各部会７名でその内５名が専門家の先生方で２

名が市民公募（男女各１名）での構成です。京都市からは当時の桝本市長はじめ上原副市長，各局長と幹部の方々が勢揃いです。市長の挨拶の後，今までの取り組み状況を京都市の幹部の方から説明を一方的にヒアリングすることになったような会議で，せっかく出席したのだからと何を話そうかと必死になって考えたものです。その時，大変な努力による取り組みをされているのが理解できたが，これらを市民に分かっていただくことが重要だと発言したことを記憶しています。

(3)　第一，第二回基本計画点検委員会華やぎ部会

これからが本番の部会活動です。

①美しいまちづくり　②文化　③国際交流　④生涯学習　⑤産業　⑥観光　⑦大学　⑧青少年　⑨個性と魅力あるまちづくり　⑩交通基盤　⑪高度情報化と，各分野についての取り組みについて進捗状況を確認し，それに対しての意見交換です。また，基本計画40指標のうち当部会が担当する13の指標については，留学生数が4,311人，青少年活動センターの利用者数36万人，海外からの観光客（宿泊客）数80万人と３指標が目標を達成し，電柱の見えない歩道等の延長，市民一人当たりの都市公園面積，市立図書館の蔵書数，学校のコミュニティプラザ数，地域の生涯学習コーディネーター数，観光客数，京（みやこ）カレッジ科目提供数，「地区計画」策定箇所数，インターネット利用率の９指標が目標に近づきつつあり，事業所開業率，市内におけるひとの移動の公共交通機関分担率の２指標が目的達成困難と見込まれると，進捗していることが報告されました。

総括的な評価として，美しいまちづくり，文化，国際交流，生涯学習，産業，観光，大学など，華やぎ部会での点検した各政策は「新たな景観

政策」をはじめとして大胆で創造的な取り組みが進められていて，市当局の努力を高く評価するが，今後の課題についてはさらに実現に向けて取り組んでいただきたいと要請がまとまりました。また，今後の推進に向けた意見としては，各部会間の政策の連携や世界の流れを視野に入れた政策を取る必要性を強調し，政策の推進に当たり，市民の意見の的確な把握に努めるとともに，様々な政策の目的，目標を広く市民に周知し，理解を得る必要があるとの要請をまとめました。

(4) 第二，第三回基本計画点検委員会

いよいよ全体まとめの委員会です。第２回委員会では，各部会のまとめの報告と点検結果報告書作成への意見交換を行いました。各専門委員から様々な意見が出ましたが，市民公募委員と言う立場である私は，これだけの取り組みを如何に市民の方々に周知徹底し，理解していただくことができるかが一番大事であり，市民の目線で報告書を作成することの大切さを要請した次第です。第３回委員会では，各委員の意見を取り入れた素晴らしい報告書案が出てきました。これをさらに委員長はじめ部会長の方々にまとめあげていただき，最終の報告書[1)]が完成しました。市民の皆さんがご覧になって，理解を深めていただくものとなって行くことを期待します。

3　日本の京都から世界の京都を目指して

これからの京都市政の将来について点検委員会に参加して感じたことを考察しながら論じて参ります。

1）『京都市基本計画点検結果報告書』京都市基本計画点検委員会，2007年12月

2006年で京都を訪問した観光客数は4,839万人に対して，海外からの宿泊客数は約80万人と目標指数評価では合格点かも知れないが，国のビジット・ジャパン・キャンペーンで掲げられている2010年で1,000万人の達成に京都市が貢献するためには，もっと目標値を高め，世界からの観光客誘致に努める必要性を感じます。また，世界の各国への観光客数をみますとフランスへは約7,910万人，スペインでは約5,850万人で，陸続きで無い英国も約3,010万人です。それに対して日本は730万人で30位でしかありません[2)]。

同様に京都市においても，図３をみていただくと如何に海外からのお客様が少ないか理解していただけるでしょう。総観光客の宿泊数に対して2001年で3.9%，2006年でやっと6.3%です。

総観光客数に対する宿泊客数も2001年で24%，2006年で26.1%と伸びていますがまだまだ滞在型としての過ごしていただくまちと言えないでしょう（図４）。日本の文化発信基地として，おもてなしの心を満喫していただくことができるようにもっとゆっくり滞在していただけるまちづくりも目指すべきだと思います。また，京都観光での不満点が2005年，2006

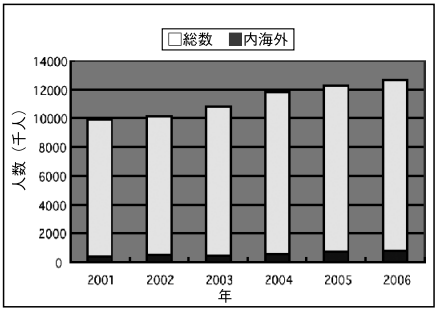

図３　京都への観光客の宿泊数

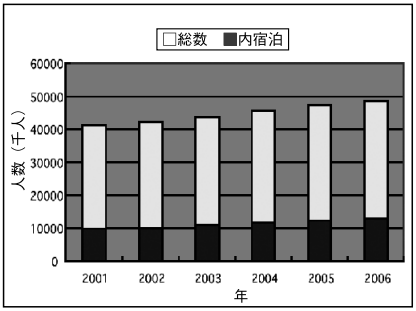

図４　京都への観光客総数と宿泊客数

２）2006年暫定値，JNTO（国際観光振興機構）公表データ

年ともに交通と道路が１，２位を占めています[3)]。

これを解決することが重要な課題と言えます。

また，世界における旅行先のベスト都市は，2007年版の米国の旅行誌『トラベル＋レジャー』によると京都はベストテンにも入っていません。１位はフィレンツェ，２位ブエノスアイレス，３位バンコク，４位ローマ，５位シドニー，６位ニューヨークなどとなっています。京都はアジア版で６位（2006年は４位）です[4)]。もっとダイナミックに世界の動きを把握し，日本の京都ではなく世界の京都を目指していただきたいものです。

それに対して，三つの観点からの提言で話を進めて参りたいと思います。

①　市民に優しい住み良い安心，安全な都市宣言

――観光客に市民が心からのおもてなしができるまちづくり――

世界の都市における住み良い都市ランキングの上位へ入る施策の取り組みを実施し，行ってみたい観光都市だけでなく，住んでみたい都市にして行くべきです。

マーサー・ヒューマン・リソース・コンサルティングによる世界で一番住みやすい都市ランキングを参考に考察したく思います。評価項目は『政治・社会環境』では政治的安定度，犯罪歴，法的取締り，『経済環境』では通貨変動，金融サービス，『社会・文化的環境』では検閲，個人的自由の制限，『医療・保健』では医療，伝染病，下水，大気汚染，『学校・教育』では学校教育の水準・普及度，『公共サービス・交通』では電気，水道，公共交通機関，交通渋滞，『レクリエーション』ではレストラン，劇場，映画館，スポーツ，レジャー，『消費財』では食品，日用品，車の調

３）『京都市観光調査年報平成18年（2006年）』京都市産業観光局，2007年７月
４）http://www.travelandleisure.com/worldsbest/2007/results.cfm?cat=cities

達環境，『住宅』では住宅，家電，家具，メンテナンス・サービス，『自然環境』では気候，自然災害です。この調査は海外駐在員方のために全世界215都市のデータとして調査されて，京都市は対象にはなっていませんが住み良いまちづくりと言う観点からは参考になるので挙げてみました。

2007年の１位はチュリッヒ（スイス），２位ジュネーブ（スイス），３位バンクーバー（カナダ），ウイーン（オーストリア），同得点５位がオークランド（ニュージーランド），デュッセルドルフ（ドイツ）で20位までには日本の都市はどこも入っていません[5)]。

同様にエコノミスト・インテリジェンス・ユニットの調査では，評価項目は『安定性』では自然災害，犯罪発生率や軍事紛争の恐れ，『保健医療』では保健，衛生，病気，暴力犯罪，テロリズム，『文化・環境』では文化，レクリエーション設備，消費財，気候，『教育』では学校，教育，『インフラストラクチャー』では交通機関，住宅，水供給，エネルギー，通信となっています。

2005年の１位はバンクーバー（カナダ），同得点２位がメルボルン（オーストラリア），ウイーン（オーストリア），ジュネーブ（スイス），同得点５位がパース（オーストラリア），アデレード（オーストラリア），シドニー（オーストラリア），チューリッヒ（スイス），トロント（カナダ），カルガリー（カナダ）が入っています。日本では同得点16位に東京，同20位に大阪・神戸が入っています[6)]。

評価される課題を見極め，それへの対応をする必要な取り組みをしっかりやるべきです。

５）マーサー・ヒューマン・リソース・コンサルティング株式会社「2007年世界生活環境調査」のニュースリリース
http://www.mercer.com/pressrelease/details.jhtml?idContent=1173105

６）エコノミスト・インテリジェンス・ユニット「Worldwide Cost of Living survey 2006」

まず，日本で一番になるために，東京や大阪市・神戸市と比較して何が劣っているか考察するのに，『日経パソコン』の2000年新春特別号にある全国ｅ都市ランキングが参考になりますのでそれの評価から考察させていただきます。

「情報環境」「ビジネス環境」「生活環境」の三つの評価ポイントから日本の都市を点検し，仕事と生活に優しいｅ都市ランキングが作成されています。

情報環境は，パソコンやインターネットを存分に活用するための通信インフラの充実度や，それをサポートする施設，ITに対する感度の高い人的なコミュニティの存在などから指標化されています。

ビジネス環境は，首都圏へのアクセスの良し悪し，ホテルをはじめとする商業施設の充実度，新しい企業の増加率，賃料や人件費の安さなど，主として産業の集積度やビジネスコストを評価されています。

生活環境は，住宅の広さや物価の安さ，自然環境，福祉サービスの充実度，コンビニエンスストアの店舗数などを指標化されています。

総合ランキング１位は大阪市，２位千代田区（東京），３位名古屋市，４位神戸市，５位仙台市で京都市は10位です。

生活環境編では１位は宮崎市，２位福山市，３位倉敷市，４位徳島市，５位鳥取市で京都市は61位となっています。

また，情報環境編では１位は大阪市，２位千代田区（東京），３位仙台市，４位名古屋市，５位神戸市で京都市は11位となっています。

そしてビジネス環境編では１位は大阪市，２位名古屋市，３位港区（東京），４位横浜市，５位神戸市で京都市は９位となっています[7)]。

なお，同様の『日経パソコン』のｅ都市ランキング2007年版では自治体の情報化進展度調査として，情報・サービス，アクセシビリティ，庁

7）『日経パソコン』日経BP社，2000年新春特別号

内情報化，情報化政策，セキュリティと変わり，京都市は総合で43位となっています[8)]。

こういった観点から，京都市がさらに良くなって行くのに必要で自立的にできるのは何なのか考えてみますと，生活環境側面では福祉サービスの充実で，ビジネス環境と情報環境側面では商業施設の充実や産業集積によるビジネスコストを安くする交通インフラと情報インフラの充実が大切ではないでしょうか。観光客からも交通インフラの悪さは指摘されていますのでこの整備は最重要課題ではないでしょうか。

②　世界に通用する文化と先端技術の融合都市宣言

——歴史・文化だけでなく産業観光の確立に向けて——

マンガミュージアムや太秦の映画村等との連携を図り，アニメやゲームソフト事業の展開できる産業活性化対策として京都市南部地域の活用することによる今までに無い文化の発信で新しい観光客の誘致を図るべきです。

また，大学間連携だけでなく産学連携の拡大を通じて，知的ビジネス創造機能の充実による先端企業のさらなる誘致を図るべきです（京都南地区を知的ビジネス特区への展開）。

島津製作所，京セラ，村田製作所，堀場製作所，オムロンなど先端企業を，内外の企業や官公庁の方に見学し，京都の企業の先進性や成長性を理解していただくために，日本・京都へのビジネス訪問の機会を増やす施策を提案します。

8）『日経パソコン』日経BP社，2007年７月23日号

③　世界一の環境No.1を目指す取り組み都市宣言

―――持続可能な環境にやさしいまちづくり―――

京都議定書が発効し，世界的に地球環境の変化に危機意識が芽生えてきた今こそ，世界に向けてこの宣言を発し，市民が実践する政策を取り入れ世界の先行事例として実施し，これに対する見学観光を新しい観光の方策とします。

『京都市観光調査年報』によると，現在は米国からの訪問客は31％と多数を占めていますが，今後はアジア，特に中国からの訪問客の誘致が必要ではないでしょうか。中国では富裕層だけでも日本の人口に匹敵する人数であり，海外出国も法的にも緩やかになってきています。歴史だけでなく産業観光を組み入れることでアジア，特に中国からの観光客を増やすことも可能になると考えられます。現在中国では日本のアニメや漫画が若者の中で大いに流行しています。漫画だけでなくアニメやゲームの産業地区を設けて新しい文化も発信できることでより一層京都に興味を持った方たちの訪問が増加してくることを確信します。

以上の３目標を推進するために取る政策について以下の観点を取り入れていただきたく思います。

＜世界や先行事例に学ぶ政策＞　――『学ぶ』――

事例１，シンガポールの車乗り入れ規制やゴミ捨て罰金制度によるまちの美化

- 中心部への乗り入れは有料化（時間帯や曜日により価格は変わる）
- 最近道路や空き地などによくみかける空き缶や，タバコ，コンビニのビニール袋等を捨てた場合の罰金制度の導入

事例２，パリの貸し自転車による排ガス削減，渋滞緩和

2007年７月より市営の自転車レンタル制度がはじまりました。観光だけでなく通勤通学の足を地下鉄から貸し自転車（ベリブと呼ばれる）[9]に切り替える市民が増えています。利用客数は９月末には500万人を超えています。一日乗車券は１ユーロ（2008年２月１日現在，約158円）で１週間券（５ユーロ），１年間29ユーロもあり，３，４百メートルおきに駐輪場が整備され，一ヶ所に十数台のベリブが用意されていて（全市で750ヶ所，10,600台）券売機で券を買い，到着地の駐輪場に返すと言う手軽さがあります。券売機には日本語も含めた８ヶ国語の説明書きがあり，観光客の多いまちならではの配慮があります。世界の都市交通のあり方の一助になりそうであります[10]。

事例３，名古屋市のバスレーンやバスターミナル

名古屋では朝の通勤時間に運行時間が読めるように，バス優先レーンの設置や駅前ターミナルはビルになっていて行き先が分かりやすくなっています。

＊　現状の京都駅近辺の観光バスやタクシーの混雑を解消するためにも，また利用客の利便性を高めるためにも本格的なバス，タクシーターミナルビルの建設は重要な課題です。

事例４，都市交通のパラダイム変化を起こす

ガソリン車と比較して電気自動車やハイブリッド車への市内流入優遇策（専用駐車場設置や駐車料金の割引補助）の導入

事例５，歩行者天国のエリアの再検討など歩いて楽しいまちをつくり，

９）フランス語のベロー＝自転車＋リベルテ＝自由からの造語

10）2007年10月28日の日本経済新聞

環境にも優しくてゆっくり過ごしていただく滞在型の観光客を増やす方策づくり

東京銀座歩行者天国の拡大版の実施――閑散期に大学，高校や企業の音楽クラブの演奏や学生を中心にしたイベントを交えて，四条通や河原町通の歩行者天国の実施

＜今取り組んでいる施策を進化，発展させる＞　――『極める』――

事例１，使用済み天ぷら油のリサイクル事業をもっと大々的に展開し，情報発信を広範に行い，COP13パリ会議にて事例発表されたように各地区，各国へもっと積極的なアピール

事例２，路上におけるたばこ禁止条例（京都市路上喫煙等の禁止等に関する条例）の展開の拡大及び主要屋内集会場所や飲食店での禁止への展開

事例３，パーク＆ライドの取り組みの本格化

大阪や，神戸などからの車での観光客向けに，名神高速の京都南インター近辺及び国道1号線，９号線，171号線からの流入対策として公共交通の市内へのアクセス確立と大規模駐車場の設置を図ります。

事例４，ベンチャー企業の更なる誘致と活動の拡大

『京都市ベンチャー企業目利き委員会』の活動をもっと広げ知名度をあげて日本だけでなく世界の企業を誘致する。京都市南部地区における特区政策として日本のシリコンバレー化を図ります。

事例５，環境家計簿を市民に策定をしていただくことを徹底する

京都議定書発効都市としての市民意識の向上・高揚を目指すとともに市民の家計費削減にもなる簡単な取り組みを提案します

（電気代やガス代，ガソリン代，ゴミ量の毎月のデータが簡単に記入できて比較できるもの）。

＜市民の力を信じて，もっと市民の実行力を活かす政策＞――『活かす』――

・　市民一人ひとりが全員参加だと自覚し，実行できるような政策を掲げ，もっと政策を知らしめ，市民の意識を高めることで政策の実行をよりスムーズに推進できるのではないでしょうか。

・　環境側面やベンチャー側面，産学連携側面等において，京都を中心に活躍されている各NPO法人やボランティア団体の連携をさらに高め，もっと相乗効果が期待できる大きな渦にして行くこと，市民全体の問題や話題として取り組んでいただきます。

4　まとめにかえて

＜課題解決への私見としての提言＝

改善発想から改革発想へ，明るく夢のある政策へ＞

他府県市の方から京都市に住んでいると羨ましがられるが，真に京都市は住みやすいのでしょうか。千年の歴史あるまちとして，観光に行ってみたい都市ではあるが住み良いでしょうか。誇りは持っているが本当に住み良いところとして自信のある紹介ができるまちにして行きたいものであります。今こそ『量』から『質』への転換時期です。そこで一つの提案ですが，観光客来訪数は日帰りも含めて4,839万人ですが，今後は量から質への転換と言うことで，ゆっくりした滞在をしていただくようにして，宿泊客の増加を目指して，2006年の1,265万人を2010年で2,000万人へ，その内の外国客500万人への挑戦ができませんか。そのた

めには以下のような対策も必要となります。

① 京都駅周辺の再開発，特に八条口におけるバスターミナルビルの建設で市内観光の交通インフラの充実と公共交通の分かりやすさの確立

② シルバー層及び学生の活用で観光ボランティアや京都案内コンシェルジェの育成

③ 文化発信として邦楽演奏会や寺院を活かした日本文化講座や体験の常設

④ 関西国際空港から１時間以内で来ることができる交通アクセスの確立と京都駅１極からの脱皮としての第２ターミナル駅の設置

⑤ 京都市南部地区再開発の取り組みとしての特区推進

ベンチャー企業や若者の創業を促進し，新しい文化を生み出すエリアとして，マンガミュージアムに続き，ゲームソフトやアニメーション産業の誘致を図ります。世界の観光客に訪問していただくには，日本の新しい文化として優位性のあるこのような産業集積地も必要ではないでしょうか。

⑥ 昔の地区挙げての大掃除に戻るわけではありませんが，年に２回の市民挙げての環境取り組みデーを設定し，自宅内だけでなく地域を清掃することでまちの美化の効果をあげることができないでしょうか。

⑦ おもてなしキャンペーンの展開

観光の端境期に特別キャンペーンとして，市民総出のキャンペーンを張り，『もったいない』以上の言葉として『おもてなし』を世界語として認知してもらい，京都とリンクしていただくようにして行きます。

いろいろと提案させていただきましたが，すべての提案が実現できるとは思いません。もっとダイナミックに選択と集中をするとともに，深く研究，検討をしていただき，日本・京都の良いところ，強いところをさらに強くすることも必要だと思います。昨今，日本の悪い面ばかりが強調されていますが，もっと明るい未来，夢があり市民に安心感，自信を持ってもらえることができる政策が必要ではないでしょうか。

「不易流行」と言う言葉があるように，変えないところ＝良いところをしっかり守り，強めて行き，変えなければいけないところは思い切って変えて行く政策であって欲しいと願います。

京都市の制度・政策立案には，世界の京都，主役は市民と言う二つを基本柱として，今まで以上に何事にも積極的に取り組んで行くと言う発想を大事にしていただくことをお願いいたします。また，着眼は改善発想で無く改革発想で大局的に考え，着手としての政策の実行・取り組みには現場・現地・現実を見据えた小さなことも大切にしていただくことをお願いいたします。会社生活で学んだことの一つに，何事を行うにも『目配り・気配り・心配り』が大切と言うことがあります。そのような配慮で，市役所の方全員が政策を立案・実行されることで，日本の良き心『おもてなしのこころ』がすべての市民に行き届き，その結果として，市民が安心して，自信と誇りを持って，京都市に住んでいて良かったと心から思えるようにするのが肝要です。『もったいない』と言う言葉が世界語になったように，『おもてなし』『おもてなしのこころ』も京都発で世界語になり，全市民が心から京都市に住んでいて良かったと思える京都市になることを期待しましてまとめとさせていただきます。